様式例・記載例（法第 28 条第 1 項関係「前事業年度の事業報告書」）

２０２０年度（令和２年度）の事業報告書

２０２０年４月１日から　２０２１年３月３１日まで

特定非営利活動法人
居場所サポートクラブロベ

１　事業の成果

⑴ 学童クラブの開設・運営事業　⑵児童福祉法に基づく障害を持つ児童等の保育及び学習支援事業

本年度は新型コロナウイルスの感染予防対策として、新年度スタートから小学校がお休みとなる異例の事態となった。しかしながら、子どもの居場所としての学童保育は開所することとなった。そのため、ロベは新年度初めから 6 月初旬まで、学校の長期休み期間中と同じ、朝からのお預かりを実施。机・手すり・蛇口・ドアの取っ手の除菌や、職員のマスク着用・勤務前の検温などの感染予防施策を取った。

6 月初旬に学校が再開してからは、ロベでも放課後のお預かりという通常のスケジュールに戻した。学童保育では、例年に倣い 4 つの特別プログラムを実施。①算数・国語塾タイム、②書道タイム、③図工タイム、④英語タイムの４つ。

① 算数・国語塾タイムでは、無学年教材を使用し、児童各々が毎回一定量の学習を行った。意欲の高い児童はもくもくと取り組むことにより大きな進捗を示した。
② 書道タイム、③図工タイムでは、硬筆と毛筆の練習や、絵を描いたり、タコ作りなど、講師の用意したテーマ・材料を基にして有意義な時間を過ごした。
③ 英語タイムでは、筑波大学英語講師によるレッスンを実施。講師の用意したプリントで英語を学んだあとは、英語で歌って楽しんだ。

そのほか、夏休みには、学生ボランティアのサポートを受けてのプール遊びやバーベキュー、秋にはハロウィンやクリスマスのハンドベル発表会などのイベントを実施。コロナ禍ではあったが、子ども達は屋外や室内での学びや遊びに元気いっぱいに取り組んだ。

⑵児童福祉法に基づく障害を持つ児童等の保育及び学習指導事業⑶児童生徒の学習指導事業

つくば学習会とは、経済的な理由により学習塾の機会確保が難しい子供への学習支援無料塾である。様々な理由で学習の機会を確保できなかった、小学生から高校生までの児童に学習支援を行っている。本書は令和 2 年度におけるその無料塾の取り組みをまとめたものである。

１、つくば学習会の理念と目標について

特定非営利活動法人 ROBE つくば学習会は、弊社理念「愛・調和・感謝」の精神に基づき、下記の目標

に取り組んでいる。
１．経済的困窮世帯の児童へ、学習の機会を提供し、学力の遅れの挽回、成績向上。
２．学習会での勉強や体験のなかでの自己肯定感をはじめとする非認知能力の向上。
３．食、社会の支援情報、体験機会・相談機会などさまざまな方面からの包括的支援。
４．１～３について、生徒、家庭ごとに必要なサポートの見極めとその提供。
５．１～４を通じ、学習機会の損失・支援の不足に基づく貧困の連鎖を食い止める。
令和２年度においては、特性のある生徒の入塾も多くあり、より幅広く、かつきめの細かい支援が必要となった。

２、実施回数と参加人数について

貧困世帯の子供たち（主に小中学生）に対する無料学習支援事業を行った。
つくば市との協働事業の、つくば青い羽根学習会として竹園教室・谷田部教室を運営。
また、自主事業として万博教室を運営した。実施回数の参加延べ人数は以下の通り。

	竹園教室（毎週月曜日）	谷田部教室（毎週火・木曜日）	万博教室（毎週土曜日）	合計
実施回数	72 回	126 回	39 回	237 回
イベント実施回数	5 回	6 回	1 回	12 回
登録生徒人数	31 人	47 人	16 人	94 人
参加生徒延べ人数	873 人	1595 人	287 人	2755 人
登録コーチ人数	53 人	50 人	27 人	130 人

【特記事項】
・年間を通じて、新規に申し込みをした生徒は 30 名ほど。退会をした生徒は 8 名ほど。
・新たに登録をしたボランティアは 35 名ほど。
・オンラインでの学習支援も含む。

３、新型コロナウイルス感染症対策について

【実施、来塾の判断】
2020 年 4 月・5 月、2021 年 1 月の大半がコロナウイルスの影響で、休塾の対応となった。塾を実施するかどうかの判断は、つくば市こども未来室と連携し行った。また、学校が休学になった場合は、当該学校の生徒は来塾させない措置をとった。

【現場での感染症対策について】
１　社会的距離の確保
□　社会的距離を確保した座席の配置
□　接触機会をできるだけ避けるよう指示
□　これまでの調理室での全員集まっての会食を中止。
休憩時間の分散等による休憩スペース等における人の密集を回避
２　職員及び受講者等の保健衛生対策の徹底
□　職員及び受講者のマスク着用、手洗い（手指消毒）
□　消毒液の設置、ごみ廃棄時の衛生管理
□　職員の体調管理、風邪症状がある場合の受講自粛を要請
３　施設の衛生管理・換気の徹底
□　座席、机、テーブル、利用設備・機材等の消毒
□　換気設備による換気、又はドアや窓の開閉による換気
□　手洗い場（トイレ）におけるハンドドライヤーや共通のタオルは使用しない
４　集団としての感染症対策意識の向上
□　感染症対策は誰かにやってもらうものではなく、自分の身は自分で守る、大切な人の安全を自分から守る、という意識の元行われるものだという意識づくり。

【利用施設に対して】
利用施設の取り決め通り、利用者の容態確認を随時行い、毎回、利用者の名簿（住所と電話番号が分かるもの）を施設に提出した。
【食事について】
子ども食堂も、市の判断に応じての実施とした。実施した場合、下記の徹底の元での実施とした。
・食事前の手洗い消毒・密集状態をつくらないよう、各教室や廊下での食事
・学習机での食事になる場合は、机の除菌、消毒を実施・生徒ごとそれぞれの食器、箸での食事

4、つくば市協働事業の学習支援について

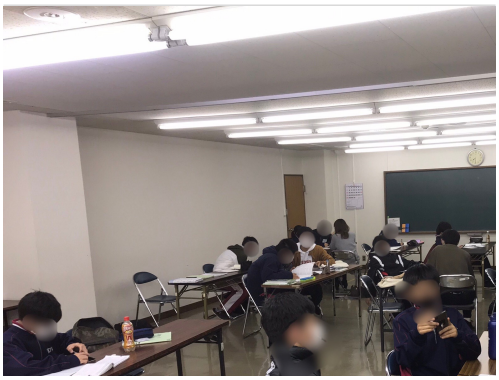
下記の通り、つくば市社会福祉課子ども未来室と連携をとり学習支援を行った。
また、現場で起きたことや生徒について、担当課はじめ、家庭相談員、スクールソーシャルワーカー、家庭相談員、未来派遣員他のNPO団体といった各専門機関に協力を要請し都度問題の解決を図った。

A：竹園教室		
運営形態	つくば市社会福祉課子ども未来室との協働事業。 「つくばこども青い羽根学習会」の枠組みでの運営。	
	小学生教室	中高生教室
学習時間	毎週月曜日 18:30～19:30　授業前半 19:30～20:00　こども食堂 20:00～20:50　授業後半	
指導スタイル	コーチ１人で、 生徒を１人、ないしは２人 見る個別指導方式	コーチ１人で、 生徒を１人、ないしは２人 見る個別指導方式
１回あたりの 生徒の参加人数	6～10名ほど	15～20名ほど
１回あたりの コーチの参加人数	4～6名ほど	10～15名ほど
利用教材	【のびのびジャンプ】 無学年式の教材で 生徒の理解レベルに合わせた学習を行った。 教科は国語と算数。	【生徒持参教材】 主に学校のワークブックや、 学校で出されたプリントなど。 【コーチ用意教材】 必要と思われた生徒に対しては、 コーチや本部で用意した教材 にて学習を行った。
学習の様子 や成果	学習障害を持った子が４、５名在籍。それぞれの特性に応じた学習支援が必要となった。学習障害を持った子に対しては臨床心理士に学習計画、学習指導案をいただきそれに基づいて学習支援をすすめた。 また、外国籍の生徒が、４名ほどいるため、国語の授業を軸に学習支援を行った。	コーチと生徒の担当を固定化することにより、信頼関係の構築ができた。また、来てくれるボランティアコーチが多かったため、ひとりひとりの理解度に応じたきめ細やかな指導ができた。静かに机に向かえる勉強態度の良い生徒がほぼで、 良い集中環境で取り組めた。

小学生教室の様子　　中高生教室の様子

B：谷田部教室		
運営形態	つくば市社会福祉課子ども未来室との協働事業。 「つくばこども青い羽根学習会」の枠組みでの運営。	
学習時間	毎週火曜日、木曜日 18:30～19:30　授業前半 19:30～20:00　こども食堂 20:00～20:50　授業後半	
	小学生教室	中高生教室
指導スタイル	コーチ 3～4 人で、 生徒を 10～15 名ほどに対応。 生徒が各々教材をすすめ、 コーチが回答を確認する方式。 生徒はなるべく自分の 力だけで学習をすすめる。	コーチ 1 人で、 生徒を 1 人、ないしは 2 人 見る個別指導方式。
1 回あたりの 生徒の参加人数	10～15 名ほど	8～15 名ほど
1 回あたりの コーチの参加人数	3～4 名ほど	6～10 名ほど
利用教材	【のびのびジャンプ】 無学年式の教材で 生徒の理解レベルに合わせた学習を 行った。 教科は国語と算数。	【生徒持参教材】 主に学校のワークブックや、 学校で出されたプリントなど。 【コーチ用意教材】 必要と思われた生徒に対しては、 コーチや本部で用意した教材 にて学習を行った。
学習の様子 や成果	集中力が続かない子も多く、 まずは学習習慣を身に着ける ことが目指された。 時間にて定められた行動をすること、他の生徒に迷惑がかかるとはどういうことか、 といった社会における 普遍的なルールの習得にも 力を入れた。 学習においては表面的な理解 で終わらず、本質的理解を 目指し、応用的な問題にも対応できる力の習得を目指した。	隣の子と私語をしてしまうことを減らすため、なるべく各生徒に 担当をつけたり、配席を工夫して勉強に集中してとりくめるような環境の設計に力を入れた。 生徒の勉強への興味を保持するために、本、プリント、タブレットなどいろいろなツールを取り入れた。ただ答えを写すだけ、などならないよう意味のある時間にするため、コーチにも生徒にも、限られた時間をどう最大限活かすか常に意識させ学習支援に取り組んだ。

小学生教室の様子



中高生教室の様子

両教室ともボランティアコーチの熱意が高く、生徒それぞれにあった学習支援をボランティアコーチとともに探っていくことができた。

５、自主事業の学習支援について

つくば市との協働事業でない、自主での学習支援事業も下記の通り行った。

C：万博教室（小中学生合同）			
運営形態	NPO 法人居場所サポートクラブロベにて独自に無料塾を実施。 時間帯や場所の都合で竹園教室・谷田部教室に来れない子どもたちが主な対象になった。		
学習時間	毎週土曜日 10:00～12：00	場所	万博記念公園駅前 X-STAGE006
指導スタイル	コーチ 3～4 人で生徒を 8 名ほどに対応。 担当する生徒を決め、学習を支援。 コーチ１人で１～３名の生徒を見た。		
	小学生教室	中高生教室	
生徒の 参加人数	1 回あたり 4 名ほど	1 回あたり 4 名ほど	
コーチの 参加人数	1 回あたり 3～4 名ほど		
利用教材	【のびのびジャンプ】 無学年式の教材で 生徒の理解レベルに合わせた学習を行った。 教科は国語と算数。	【生徒持参教材】 主に学校のワークブックや、 学校で出されたプリントなど。 【コーチ用意教材】 必要と思われた生徒に対しては、 コーチや本部で用意した教材 にて学習を行った。	
学習の様子 や成果	できるだけ同じ子供を担当するようにしているので、担当コーチとの間に信頼関係が生まれている。そのため、学習に関しても良い形で取り組めている。 また、新聞連載を利用するなど、科目にとらわれない学習も取り入れた。 一部、学習に意味を見出せてない子供やなかなか来られない子供もいるが、適切な働きかけを行うことでそれまでよりも前向きに学習に取り組めるようになった。	中高生は、竹園教室と併用している生徒が主であり、ツールを使い情報を共有しながら指導にあたった。9 年生の生徒は、そのおかげもあって成績をアップさせ無事高校に合格することができた。さらに、苦手科目に対する抵抗を克服し、自分から取り組むようになった。 また、動画やアニメなどを教材に取り入れることで、英語や歴史に対する拒否感を小さくすることができ、学習に前向きに取り組むようになった。	

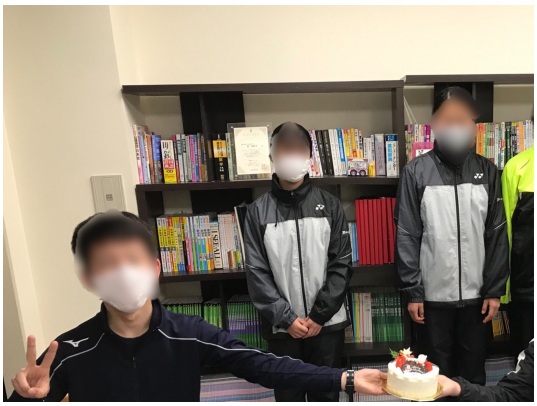
学習の様子

寄付の農産物をもらう生徒

D：万博教室（受験対策及び中高生レベル別学習支援）			
運営形態	NPO 法人居場所サポートクラブロベにて独自に無料塾を実施。 テストの得点、進学に対して意欲がある生徒限定。		
学習時間	月～日曜日	場所	万博記念公園駅前 X-STAGE005、006
対象	中高生		
指導スタイル	１回の授業でコーチ 1～2 人で生徒を 2～6 名ほどに対応。 ・小人数制と担任制を採用し、一人一人の生徒の学力や性格に応じたきめ細やかな指導を行う。 ・オンライン授業も積極的に取り入れる。 ・PC 環境が無い生徒については、PC 等の貸出を行う。 ・「分かるまで」「納得できるまで」「誰も置いて行かない」方針で指導。 ＜中学生クラス＞ ①中３受験対策講座：近年の入試傾向の変化に即した５教科の入試対策を行う。（在籍：３名） ②中２ハイレベルクラス：竹園高校、土浦二高、牛久栄進高等の難関校に合格できる確かな実力を身に付ける。（在籍：４名） ③中２基礎クラス：偏差値５０～５５程度を目標とし、生徒の学力に応じた学習支援を行う。（在籍：２名） ④中１基礎クラス：学校の授業に即し、基礎学力の向上を目指す。（在籍：２名） ＜高校生クラス＞ ⑤高２基礎クラス：学校の授業に即し、基礎学力の向上、内申点の向上を目指す。（在籍：１名） ⑥高３クラス：国公立二次試験、共通テスト対策（英語リーディング、数学Ⅰ・A、数学Ⅱ・B、化学、生物）を行う。（在籍：１名）		
１回あたりの 生徒の参加人数	４名ほど		
１回あたりの コーチの参加人数	1～2 名ほど		
利用教材	独自に用意した教材。主に市販のもの。 生徒によっては、学校の教科書やワークにより指導を行う。		
学習の様子 や成果	【総括】 学習に対して意欲的な生徒や、自分の将来の夢に向かって努力する意思がある者のみ在籍しているため、全体的に前向きに学習できている。 一部、学習に遅れがあり、学校の授業に十分についていけない生徒も在籍しており、そういった生徒達に対しては、授業のフォローを中心に行った。 逆に、難関校を目指す生徒に対しては、現実の公立高校入試や大学一般入試における過酷な現状を踏まえ、中学生では 5 教科 450 点以上を目指す指導、高校生では難関大学を目指す指導を行った。 結果として、全体的な成績の底上げに繋がったと思われる。 また、テストで得点できることによって自己肯定感の向上に繋がったと思われる。		

	クリスマス等でイベントを行うなど、居場所事業としても機能している。 ①中３受験対策講座（3 名在籍）合格のための基礎学力を定着させる。 A さん：水街道一高合格、B さん：牛久高校合格、C さん：つくば工科高校合格 ②中２ハイレベルクラス（4 名在籍）互いに切磋琢磨し竹園高を目指す。 D さん：417 点/500 点（2020 年 2 月実力テスト）→444 点/500 点（2021 年 2 月学年末テスト）　年間平均得点：424 点　9 教科評定平均：4.8 E さん：387 点/500 点（2020 年 2 月実力テスト）→412 点/500 点（2021 年 2 月学年末テスト）　年間平均得点：395 点　9 教科評定平均：4.7 F さん：347 点/500 点（2020 年 8 月期末テスト）→425 点/500 点（2021 年 2 月学年末テスト）　年間平均得点：395 点　9 教科評定平均：4.7 G さん：402 点/500 点（2020 年 7 月実力テスト）→413 点/500 点（2021 年 4 月実力テスト）　年間平均得点：409 点 ※F さんは 10 月入塾。 ③中 2 基礎クラス（2 名在籍）高校の選択肢を広げる指導。 H さん：142 点/500 点（2020 年 8 月期末テスト）→237 点/500 点（2021 年 2 月学年末テスト）　年間平均得点：208 点　評定平均：3.3 I さん：261 点/500 点（2020 年 8 月期末テスト）→289 点/500 点（2021 年 2 月学年末テスト）　年間平均得点：273 点　評定平均：3.3 ④中１基礎クラス（2 名在籍）個性別指導。 Ｊさん（320 点→400 点前後）、K さん（170 点～220 点くらい） 2 人とも英語、数学の苦手意識が強いため、英・数を重点的に指導。 今年 5 月の中間テスト数学でＪさんは 88 点(元々40 点くらい)の自己ベストを記録。 K さんは、自宅学習時間の不足が著しいので、継続的な支援が必要。 ⑤高 2 基礎クラス（1 名在籍）将来を見据えた指導。 L さん：英語・数学・化学を中心に指導。　評定平均：3.4 中学生の時から指導。中学時ほとんど不登校だったので、特に気にかけている。ロベとしては色々と相談に乗りながら、本人の夢を応援する。次第に前向きになり、高校からきちんと学校に通えるようになった。 「ブライダルパティシエになって、幸せの後押しがしたい」との夢があり、専門学校への進学を希望。内申点が必要であることから、本人も主体的に勉強しているところ。 ⑥高３クラス（1 名在籍）難関大合格へのステップ。 M さん：共通テストの得点は、5 教科 7 科目で残念ながら 5 割程度。 茨城大学農学部は不合格、共立女子大学の 3 月入試において、受験者 4 人中唯一の合格者となる。奨学金の目途が立ち、通えるように。「バランスの良い食事から人の健康を支えたい」との本人の夢に向かって、頑張っているのに目頭が熱くなる。

ケーキのプレゼントをもらう生徒たち



オンライン授業の様子

６、⑺子育て支援に関する相談、講座、イベント等の企画運営事業⑻子育て支援サービスに関するサービス事業

相談事業として学童クラブでは、保護者とロベの代表森と支援員との２者面談を実施。無料塾ご利用の保護者とは、２者面談、三者面談、４者面談を年２～3 回実施。学童クラブでは、プログラムで塾タイムのドリルの進捗や現在の習熟度などを保護者に報告。また図工や書道、英語の状況も伝え、学校や家庭では見せない姿なども伝えた。また何か困りごとがあれば、相談に応じているが、深刻な相談は特になかった。

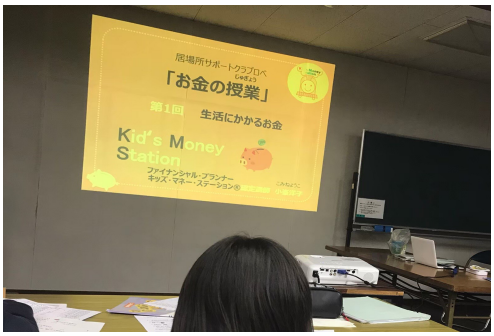
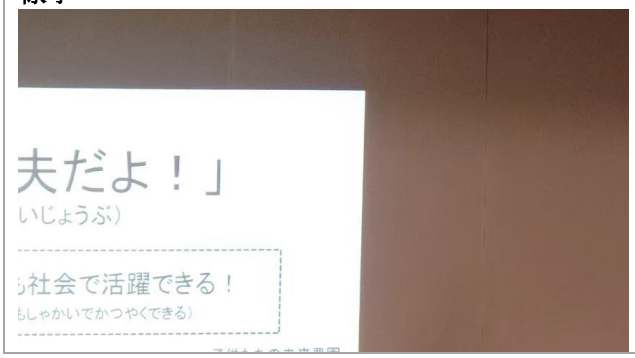
無料塾では年に２～3 回は面談を実施し、学習の内容に関しては、担当している学習ボランティアさんとともに同席してもらい、状況を保護者に報告した。また別の機会では、代表の森と保護者だけ面談を実施すると、家計や子育ての悩みが出てきたので、その際は、担当する行政のこども未来室やこども育成課の家庭相談員、そして横のつながりの NPO 法人 LANS の浅井精神保健福祉士、子ども食堂を現場でお手伝い頂いて

いる市会議員の山本美和氏ら関係各所と連携し、大事に至る前に、未然にことが防げていると思う。
授業を行う中で、面談対応が必要だと思われた生徒が複数いた。また、その保護者や関係者からの話で特別対応が必要と判断される場合もあった。
加えて、どの教室においても、学習障害が疑われる生徒についてはロベから謝礼を出し、臨床心理士の協力で WISC（診断テスト）を行った。なお、家庭への支援が必要なケースも多くあった。
＜一例＞
●小学生女子。ひとり親の母がアルコール中毒。仕事が続かない。娘が不登校。母が家で娘にあたる。無料塾への登塾も拒否。ストレスで顔や手が重度の肌荒れ。
→家庭相談員と連携。放課後デイサービスの利用を開始。すると、休むことなく明るい表情で通所中。
●中学生女子。拒食症を発症。体重が 33kg に。運動が禁じられる。
→親、医療機関、家庭相談員と連携をとり対応。食事がとれるように。
●小学校高学年男児。学習障害。顕著な勉強嫌いで、大声で騒いだりすぐにスマホを触ったり転がったりしてしまう。
→知育系ボードゲーム、タブレットでの学習、謎解きのプリントや本で対応。休まずに来塾。
●中学生男子。母親に首を絞められたという情報が入る。
→至急母と面談。本当はある息子への信頼や愛情を表現できず苦しんでいた。母の精神状態の緩和につとめた。
●中学校女子。韓国と日本のハーフ。自称性同一性障害。学校でいじめの加害者にも被害者にも。母から暴力を受ける。リストカットの自傷癖あり。死にたいとこぼす。
→未来相談員派遣を要請。母が持病で入院し退塾。
●夫がお金を持ち逃げ離婚。うつ病に。重度知的障害を持つ子含む５人の子ども。
→元夫とは民間の調停へ。母は仕事に就くことができた。そのうちのひとりはロベを利用、目線を浴びるのが怖いとのことでついたてで配慮しながら学習。
●小学校低学年男子。集団が怖く教室に入れない。勉強できない。
→廊下で絵本を読み聞かせたり、興味のある話を聞いたりし安心できる関係性を構築。
今後も、相談内容によっては行政始め、国、県、市の議員さん含め各連携機関と連携をしていく。

７、イベント・生きる力教室について

非認知能力の向上を目的として「生きる力教室」を主に竹園教室と谷田部教室にて開講。月に 1 回の目安で教科書だけでは学べない内容の習得を試みた。

実施例

生きる力教室 タイトル	内容	方法
ここからタイム 合計４回実施。	性についての授業。 自分の「こころ」と「からだ」に向き合った。小学生にはからだの変化について、中学生には避妊具のつけ方など実践的な知識を教えた。	外部講師、はぐ♡ ラボ代表の中井聖さんを招聘し、講義を行ってもらった。
マネー講座 合計４回実施。	お金との付き合い方を学んだ。 小学生にはお金は使う時に価値が発揮されることを、中学生には、現代人が一人暮らしをするのに何がいくらかかるかや、投機の投資についての勉強をした。	はっぴーマネープランニング代表の小峯洋子氏を招聘し特別講座を行った。
様子 		
こんな大人でも 大丈夫だよ	ボランティアコーチが、自分の半生を子供たちに話した。いじめに合ったり家を追い出されたり辛いことがあっても、目の前のことを一生懸命やっていれば立派な大人になれることを伝えた。	ボランティアコーチに上記チラシを配布し子どもに伝えたいことを募集した。 コーチが用意したパワーポイントなどの資料をプロジェクターで投影し生徒の興味をひきつけた。
様子 		

アニメで学ぶ 理科社会	アニメの特定のシーンをいくつか引き合いに出し、子どもたちの興味を引き付けながら学習を行った。理科では化学反応を、社会では第一次世界大戦時の国際情勢を学んだ。	ボランティアコーチに上記チラシを配布し子どもに伝えたいことを募集した。 コーチが用意したパワーポイントなどの資料をプロジェクターで投影し生徒の興味をひきつけた
様子 		

また、ハロウィンやクリスマスなど時節に応じてイベントも実施した。

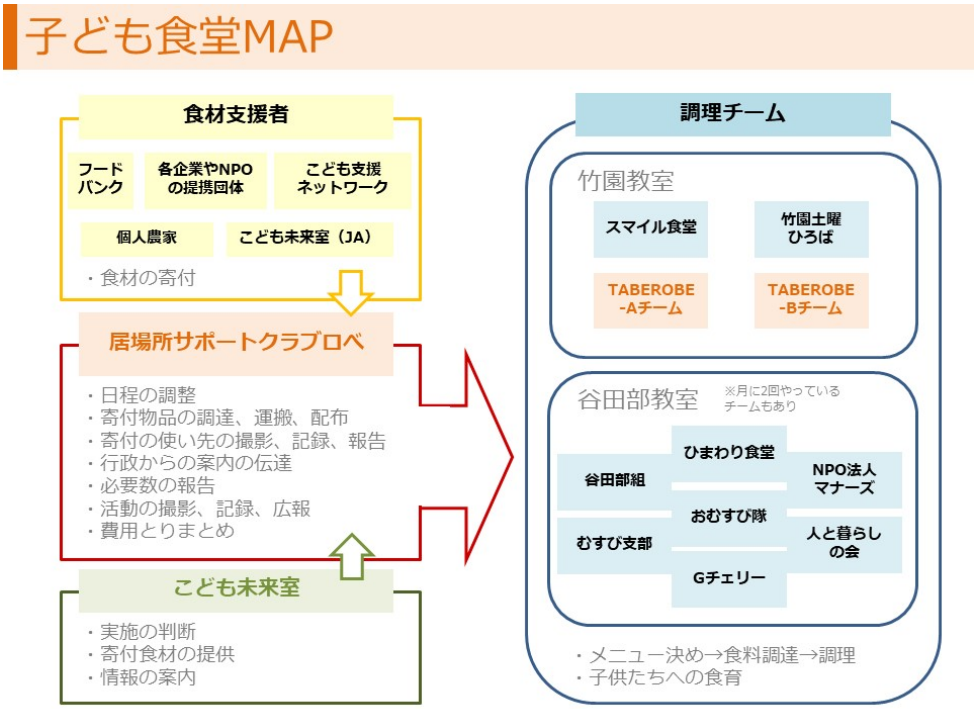
８、コーチ研修について

ボランティアコーチに対し、①学習会としての意志の統一②現場の課題の確認とその解決策の考案を主たる目的としてコーチ研修を行った。研修内容は以下の通り

実施日	参加人数	研修内容	成果
7/10	7 人 ※リーダーのみ	今後のつくば学習会をどのような場にしていきたいか話し合った。 また、今ある課題と対策について検討した。	振り返り会の仕組みを改善。日報のフォーマットを改正。目標の共有方法の確認。
11/24	16 人	コーチたち、生徒たちそれぞれの観点から、つくば学習会に今ある価値とこれから作っていきたい価値について意見を出し合った。	生徒情報の共有体制の強化。また、生徒に勉強以外のサポートや教育が必要だというニーズの発見につながった。
1/12	12 人	子どもへのコミュニケーションの取り方、勉強意欲の引き出し方について話し合った。また、勉強以外に生徒に必要な力とは何か、どう伝えればいいかの話を深めた。	コーチ間で互いに成功例を共有できた。また、「生きる力教室」でやりたいテーマをリスト化することができた。

感染症拡大防止の観点から、例年通りの実施回数にはできなかったが、少ない回数の中で現場での学習支援の質の改善につながる、意義のある研修会となった。

⑸コミュニティカフェの企画運営事業　⑿子ども食堂の運営事業
計 11 の団体と連携し、子ども食堂を行った。



◎実施回数
竹園教室・・・計 35 回　谷田部教室・・・計 65 回万博教室・・・計 2 回（スマイル食堂様が 2 月以降、土曜日にも参加）コーチと一緒に食事をすることで、“心の栄養”の補給となった。
孤食が当たり前だったり、インスタント食品ばかり食べている子たちにとって、つくば学習会に来る楽しみのひとつとなった。
各団体へ、さまざまな方、団体様から頂いた寄付物品を渡すハブとして機能した。
感染症拡大防止の観点から衛生的環境づくりを徹底した（項目３参照）

１０、

今後の課題
【生徒に対して】
　つくば学習会での課題としては、学習意欲の低い子供たちへの適切な支援がまず第一にあげられる。項目６の特別対応であげたように、そもそも家庭内の問題に翻弄され、学習どころではない子も含まれる。そうでない子でも、点が取れないゆえか勉強そのものを嫌がる子も目立つ。画一的な対処法ではうまくいく子といかない子が出てしまうため、現在担当するボランティアコーチみなさまがそれぞれその子に合わせた策を講じているところである。
また、成績の向上というところで結果にもこだわっていかなければならない。居場所として機能していても、成績が上がっていかなければ長い目で見たときに生徒は継続力、克己心が足りないままになってしまう。まず勉強の楽しさや自ら机に向かう姿勢といったものを覚えさせたなら、勉強のやり方を教え実践的に点数につなげていく必要がある。
　学力も、生きる力（思いやり、課題達成能力、コミュニケーション能力などの非認知能力）もどちらも将来に欠かせない力であり、両腕のバランスのとれた支援が必要である。

【ボランティアコーチに関して】
　個別指導の実現のためにはまだ人数が足りていない。この活動がもっと知れ渡りコーチの数を増やすには告知活動にも力を入れていく必要がある。
　また、ボランティアコーチの指導力も問われている。騒がしくしていても強く注意できない、意味のない学習をそうと分からず生徒の意見を呑み看過してしまう、子どもの気持ちに寄り添えていないといった例が挙げられる。ただ、通常の学習塾の様にカリキュラムやプログラムに沿って、という形式通りにはいかない場面も多いため、求められる柔軟性の難易度は高い。その子にはどのような支援が必要か見抜き、その子の状況をきちんと分析する力が問われている。現場からは学習支援と居場所支援、同時にやらなければならないという点で、どこまで勉強に向かわせるかの配分が難しい、という声が上がっている。
　最後に、これは仕方がないことだが、やはりそれぞれの生活や仕事の状況の変化により多くのコーチが数か月で現場を離れて行ってしまう。生徒の中にはどうせコーチはいなくなるんだから関係を築いても仕方がないと、コーチの名前も覚えない生徒もいる。コーチの方にも続けたいと思ってもらえるような雰囲気や体制を構築中である。
【子ども食堂について】
　去年度は 11 団体だったが、2021 年度よりコロナの影響により 1 団体が脱退してしまい 10 団体でのローテーションとなっている。つまり、実施日に対して食事を提供してくださる団体数が不足している。学校が終わり、部活が終わり、その後学習会に来る生徒にとって、食事は貴重なエネルギー源である。22 時近くまで学習時間は及ぶ。どの子にも空腹に耐えながらの学習のように辛い思いはさせたくない一心である。また、生徒とコーチの数が増えたことによりそれぞれの団体にかかる負荷も高くなってきている。ひとりでおにぎりを 20～30 個作らなければならなくなったケースもあった。当然、それに応じて各団体の費用・食材の負担も高くなってきている。現在つくば市からは子ども食堂に対しての直接の資金援助はなく、多くの団体に実費での負担をしていただいている。
　ハラールの子、アレルギーの子、人の手が触れたものを食べられない子といった生徒の特性に対する対応も出てきて、工程がやや煩雑になってきている。
１１、むすび
　現在、日本の子どもの７人に１人は貧困状態にあるといわれている。貧困状態の家庭では、家事に追われたり、塾に行けなかったり、親がずっと仕事で家に勉強を教えてくれる人がいない、という状況におかれている。すなわち学習に遅れが生じ、学校の進度についていけなくなり、最後には子供たちは自信や希望を失っていってしまう。そして、学力と年収は色濃く紐づいていることは統計上からも明らかにされている。物事を吸収する意欲を失ったり、頑張ることにネガティブな感覚を持つようになった子は、多くの場合未来には低収入になってしまう。そのようにして、「貧困の連鎖」が現代日本では横行している。本無料塾の最大の目的は、「貧困の連鎖の断絶」である。学習支援により貧困の連鎖が断ち切られ、あらゆる家庭の子どもたちがのびのびと暮らせる世界を実現し、ここで学んだ子供たちが社会に出て、活躍できる大人に成長してほしい。その世界に一歩でも近づけるよう、日々できることを一所懸命にしていく所存である。最後に、本紙を手に取り通読していただけたすべての皆様に、また本活動を支援してくださるすべての方に心よりの感謝を申し上げ、活動報告のむすびとさせていただく。
⑷各種スポーツ及び習い事教室の開設、運営事業
・ヒューマンアカデミー社のFC加盟によるロボット教室の運営
小学１年生から中学２年生までの11名の生徒さんが在籍し、月に２回の授業で、金曜日又は土曜日にみどりの学童施設において開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言等の影響で４、５月及び１月は休講せざるを得ませんでしたが、開催時には全員マスク着用の上、席の間隔をとり手洗いや換気等の対策を行うことを保護者の方にもご説明してご理解いただき、継続して通っていただくことができました。
ロボット製作プログラムは、ヒューマンアカデミー社の提供する教材を用いて、モーターで動く基本のロボット製作（プライマリーコース及びベーシックコース）からタブレットで動きをプログラミングする中上級コース（ミドルコース及びアドバンスコース）まで幅広く指導を行いました。各コース

は既定の履修回が定められていますが、プライマリーコースの途中からベーシックコースへ、ミドルコースの途中からアドバンスコースへ飛び級を行った生徒さんもおりました。
また、当教室の生徒さんの中には発達障害を持つ生徒さんもおりましたが、以前は長時間集中することが難しく講師の補助が必要であった組立作業も、自力で集中して進められるようになり、大きな成長が感じられました。
年度途中に教室を卒業または転校される生徒さんもありましたが、年間を通じて体験授業を積極的に行い、翌年度からの新規生徒さん入会につなげることができました。
教室運営においては、前年度２月中にLINEの教室アカウントを公式アカウントとして立ち上げ、３月末には保護者の方と運営事務局側が連絡を取りやすい体制を整えていたことが、教室の安定的な運営に役立ちました。４月以降、度重なる緊急事態宣言等により、教室開催日程を不規則に変更せざるを得なかった際にも、保護者の方との連絡を密にし、振替や一時休会の希望に柔軟に対応しながら継続して教室に通っていただくことができました。

写真：いろいろなパーツを組み合わせてロボットを製作

写真：タブレットを使ってプログラミング

・TOS 家庭教師による発達障害の家庭教師事業
TOS 家庭教師の本部と連携し、発達障害児童を専門にした家庭教師を実施。２名の生徒を受け持つ。一人の生徒は、小学３年生より継続的に指導し、現在は公立中学校の１年生になる。「勉強嫌だ」「疲れた」と言って、勉強に取り掛かるのに時間がかかる時もあるが、その日の体調や様子に合わせて根気強く指導することで、少しずつだが勉強時間が増えている。読解力はまずまずあるので国語は比較的できるが、特に算数が苦手である。小学６年生の時は苦手の算数を中心に、学力レベルに合わせた指導を行った。中学生に上がり、学校のワークのフォローや、市販の問題集で英語・数学を中心に５教科の指導を行った。アルファベットを書くことや、計算力にハンディはあるものの、初めての定期テストでは 5 教科 200 点程度取れた。部活動は野球部に入部しており、部活動と勉強の両立が難しい様子ではある。今後、家庭学習の時間をどのくらい確保してもらうかが課題であるため、こなせる程度の宿題を出している。
もう一人の生徒は、小学１年生から受け持ち、現在３年生。宿題は必ずする姿勢は見られるが、解き直しの宿題にはほとんど手が付かない。計算もゆっくり手を使うがだいぶ出来るようになってきた。学年にはまだ追いつかないが、保護者の理解もあり、ゆっくり進めている。国語と算数を実施。漢字も以前よりは覚える語数も増え、国語辞典の引き方もだいぶ早くなってきたが、寄り道（辞書をしばらく見ている）ところもあるが、それも辞書の良い面と思い、そのまま読ませている。あまりにも長いとこちらでも手を貸して早く調べられるようにしてるが、成長は確実に見られるので引き続き担当していく。

⑩障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業

・障がい者グループホームセレサ活動報告（2020 年度）

障害者グループホーム、居場所ホームセレサは３月に説明会を実施。5 月から入居者の募集で内覧会を始めた。5 月に内覧会を行い、興味のある方達が多数訪問してくださった。

パンフレットを近隣の関連施設(公的機関・関連の病院)等に配布、広く広報活動を行い、内覧は希望の連絡があれば、随時実施していた。７月にはご希望の方たちに、体験入所・短期入所を実施。

ホームのご利用は、家庭の事情（保護者の方が所用で出かける等）、試しに家を出て生活をしてみたい、いつかは親元を離れて自活して欲しいなど、理由は様々である。支援員や他の利用者様と生活を体験し、就労にも通ってみることで、本入所を考えていただくきっかけになったようである。

１０月から本入所の受け入れが始まる。ホームでは、食後の食器洗いや、部屋の掃除、洗濯等各自が出来る事は自立で行っている。１．内覧会（グループとは、利用希望本人、家族、相談員を含む）①５月２７日・５月３０日に内覧会を実施１２グループの人達が説明を聞きに訪問される。②随時希望者に内覧を実施する 6 月 7 グループ 7 月 5 グループ 9 月 1 グループ 11 月 3 グループ 12 月 2 グループ R3 年 1 月 1 グループ２.

体験・短期入所を実施（本入所に向けて生活を体験していただく）

①体験入所・T.Y 様（24 歳・男）7 月に 1 泊 2 日、2 泊 3 日、3 泊 4 日・K.H 様（20 歳・女）7 月に 4 泊 5 日、10 月に 15 泊 16 日・F.R 様（20 歳・男）7 月に 2 泊 3 日・N.M 様（56 歳・女）R3 年 3 月に 2 泊 3 日

②短期入所・Y.Y 様（28 歳・男）7 月に 1 泊 2 日・M.N 様（19 歳・女）12 月に 12 泊 13 日・K.D 様（高 1・男）12 月に 2 泊 3 日・T.R 様（小 3・男）R3 年 3 月に 1 泊 2 日３．本入所

T.Y 様（24 歳・男）10 月 18 日～K.H 様（20 歳・女）10 月 31 日～M.N 様（19 歳・女）12 月 15 日～R3 年 2 月 7 日（入院のため退所）N.T 様（20 歳・男）1 月 1 日～Y.K 様（39 歳・男）2 月 15 日～

２　事業の実施に関する事項

(1)　特定非営利活動に係る事業

事業名（定款に記載した事業）	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の金額（単位：千円）
① 学童クラブの開設・運営事業	つくば市の委託事業による放課後児童健全育成事業の運営	(A) 通年(放課後及び長期休み) (B) 万博施設 (C) 約5～6名	(D)つくば市在住の放課後子育て支援の必要な小学生･保護者 (E)約50名	14,722
② 児童福祉法に基づく障害を持つ児童等の保育及び学習指導事業 ③ 児童生徒の学習指導事業	つくば市との協働事業による低所得世帯の児童（小学生・中学生・高校生）を対象に無料で学習指導を行う学習支援無料塾	(A) 週に６～7 回（月曜～土曜実施） (B) (B)公共の施設及び万博学童・放課後ディサービス施設 (C) ボランティア含め約９０名	(D) 低所得世帯に限った世帯の児童及び保護者 (E) 約１３３名	7,770
④ 各種スポーツ及び習い事教室の開設、運営事業	・ヒューマンアカデミーのFC事業　ロボット教室の運営 ・ＴＯＳ家庭教師による発達障害児への家庭教師事業	(A) 月に４回（金曜・土曜クラス） 各基礎・応用 (B) みどりの学童施設 (C) ボランティア含め５名	(D) 地域の応募してきた児童及び保護者 (E) 約１２名	820
⑤ コミュニティカフェの企画運営事業 ⑫子ども食堂の運営事業	無料塾に通う児童に限定した子ども食堂の運営	(A) 無料塾開催日程の月・火・木週３回 月１回土曜 合計月１３回 (B) 調理室がある公共の施設 (C) ボランティア含め約７５名	(D) 無料塾に通う児童と学習指導を行うボランティア限定 (E) ３教室併せて２２３名	300
⑥ 子育て支援に関する相談、講座、イベント等の企画運営事業 ⑦ 子育て支援サービスに関するサービス事業	無料塾及び学童クラブに通う児童の保護者に対する面談、相談	(A) 年２～４回（塾：月火木の塾実施日、学童：所定日） (B) 公共の施設及び万博施設及び万博事務所 (C) ボランティア含め４０名	(D) 塾・学童クラブご利用の保護者 (E) 予定人数８０～９０世帯	0

⑩障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	障がい者グループホームの開設・運営	(A) ３６５日 (B) 緑が丘の２施設 (C) １０人	(D) 関東全域 (E) １３名	13,328

(2)　その他の事業

事 業 名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	事業費の金額 （単位：千円）
	実施しなかった		

(備考)

１　２は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。

２　２(2)には、定款上「その他の事業」に関する事項を定めているものの、当該事業年度にその他の事業を実施しなかった場合、「実施しなかった」と記載する。

様式例・記載例（法第 28 条第 1 項関係「前事業年度の事業報告書」）

○○年度の事業報告書

前事業年度の自至年月日を記載する

○○年○○月○○日から○○年○○月○○日まで

特定非営利活動法人○○○○

1　事業の成果

・以下の事業を実施した。

・ホームページの開設のための議論の検討結果は、通常総会において実施の承認が得られた。当該ホームページは、３月１日から開設している。

実施した事業は、(A)から (E)までの事項をもれなく記載する

活動計算書で事業費を事業別に区分している場合に記載する。区分していない場合は、任意の記載事項。

2　事業の実施に関する事項

(1)　特定非営利活動に係る事業

事 業 名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の金額（単位：千円）
①環境美化を目的として清掃を行う事業	・地域の通学路や駅周辺の清掃を行った。	(A)５月○日及び９月△日に行った。 (B)○○地域の通学路、△△駅周辺 (C)２０人	(D)通学路や駅を利用する市民 (E)不特定多数	５００
②活動支援を目的として助言を行う事業	・地域の通学路や駅周辺の清掃を行う活動の実施を検討している他の団体を支援するため、電子メールの利用による助言窓口を開設した。	(A)３月１日から随時行った。 (B)主たる事務所 (C)３人	(D)助言を希望する他の団体 (E)１団体	１１０
③自然環境の保護に関する講演会を開催する事業	・大学、行政、他の特定非営利活動法人に所属し、自然環境の保護に関する研究や実務に携わっている方々を招き、講演会を開催した。	(A)１月○日に開催した。 (B)□□市文化会館 (C)８人	(D)自然環境の保護に関心がある市民 (E)５０人	６００

記載する場合には，活動計算書の「事業費合計額」と全体の合計額を一致させる。

・定款に「その他の事業」が掲げられている場合のみ記載する
・特定非営利活動に係る事業の事業内容と、その他の事業の事業内容とは、相違点を明らかにして記載する

実施した事業は、(A)から(C)までの事項をもれなく記載する

(2)　その他の事業

事業名（定款に記載した事業）	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	事業費の金額（単位：千円）
①会員相互の親睦会の開催	・会員相互の意見交換のため、親睦会を開催する。	(A)年１回（12月） (B)〇〇会館 (C)２０人	１００
②チャリティーコンサートの開催	・自然環境の保護に関するイベントにおいて、チャリティーコンサートを開催する。	・本事業年度は、実施しなかった。	－

記載する場合には、活動計算書の「事業費合計額」と全体の合計額を一致させる

（備考）

1　２は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。

2　２(2)には、定款上「その他の事業」に関する事項を定めているものの、当該事業年度にその他の事業を実施しなかった場合、「実施しなかった」と記載する。